

平成〇〇年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	IBL ユースカンファレンス 実行委員会	職名	代表・事務局長	助成 金額	20 万円
氏名	蒲生諒太		印		

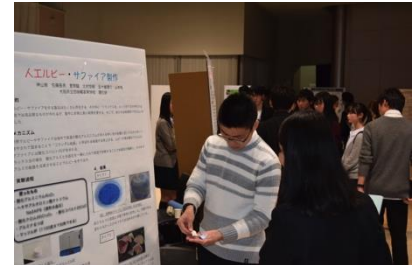
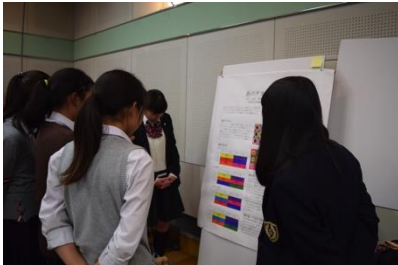
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）

高校生による探究学習の発表・交流イベント「第2回 IBL ユースカンファレンス」

助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）

こどもたちの研究活動を通じた学びである「探究的な学習（IBL）」は「総合的な学習の時間」の中心に据えられた学習活動である。探究的な学習において重要な探究成果の発表と交流の機会は、近年増えてきているものの、学校外でのものとなるとテーマが理系のものや研究指定校のみが参加できるものなど、限定的なものになっており学びの機会が不均等であった。他方で新学習指導要領においては、高校での「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に名称が変更されたり、国公立大学の特色入試等で高校時代の探究的な学習の成果が評価されたりするなど、益々、探究的な学習の普及が求められている背景が存在する。これらの点を考慮すると、探究的な学習普及のためにも裾野を広げるようなイベントの実施が必要であると考えられる。京都の学校現場や京都大学総合博物館において、探究的な学習の支援に取り組んできた申請者は、現場教員とともに IBL ユースカンファレンス実行委員会を組織し、2017年3月26日に探究的な学習の普及及び学習者同士の交流を目的とした「第1回 IBL ユースカンファレンス」を実施し、好評を博した。今回、「第2回 IBL ユースカンファレンス」を開催するにあたり、開催費用に財団せせらぎからの助成金を使用させていただいた。

第2回 IBL ユースカンファレンスは、2018年3月29日（木）に開催された。予想以上の参加人数に急遽会場を変更し、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）の1階パフォーマンススペース、5階視聴覚スタジオで行われた。参加人数241名（第1回90名）、発表数102件（第1回43件）と第1回大会と比べ2倍以上の規模となり、より多くの生徒たちに探究的な学習の交流と学びの機会を与えることができた。また、参加校も17校、北は北海道から南は大分からの参加と全国的な広がりを見せた。大学の研究者・大学院生等にアドバイザーを依頼し、すべての発表に対して研究者からの助言とともに評価を行い、単に発表するだけでなく、生徒たちが自分らの探究成果を振り返り、検討する機会とした。



助成金の使用金額及び用途

品目	項目	合計
会議費	会場費(ドーンセンター)	30,560
人件費	設営・運営スタッフ*7名	50,060
	指導助言*9名	55,420
消耗品費	パネル代	21,360
	文房具	3,124
印刷費	展示物プリント・加工代	10,064
	チラシ印刷費	8,690
	当日配布物印刷費	11,828
輸送費	パネル輸送費	9,180
合計		200,286

助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）

IBL ユースカンファレンスウェブサイト（<https://ibl-japan-conference.wixsite.com/index>）内の第2回大会（<https://ibl-japan-conference.wixsite.com/index/2>）にて写真等を合わせて、その概要を報告しております。